

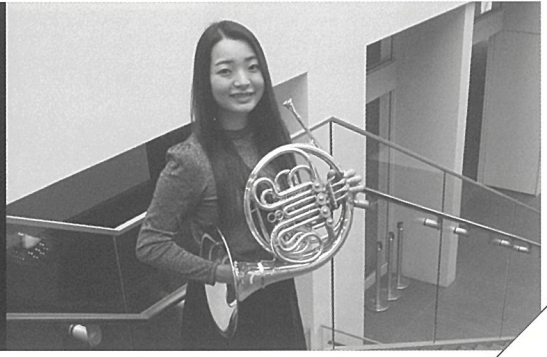
Interview

楽団員インタビュー Vol.55

ホルンは難しいからこそ 説得力がある

ホルン 小椋 陽咲

Hisaki Ogura, Horn



◆楽器を始めたきっかけは？

母がホルンをやっていたので、小さい頃から楽器が実家であり大きくなったら吹きたいな～と思っていました。中学生になるタイミングで吹奏楽部に入団し、すんなりホルンを始められると思いきや、ホルンの希望者が多くて楽器決めオーディションをすることに…。当時の私は「唇が分厚い人はホルンになれない」という噂を聞いて鶏呑みにし、オーディション中ずっと唇を中に巻き込んでいたのを覚えています。努力が身を結び(?)無事にホルン吹き人生が始まりました!

◆オーケストラプレイヤーを目指したきっかけは？

最初は音楽の先生になりたいなと思っていたので、音楽大学への進学を考えていたのですが、高校生になった頃から気付いたら夢はプロのプレイヤーでした。大きなきっかけはなかったですが、小さい頃からピアノやバレエを習っていたので、オーケストラへの興味はずっとあったと思います。バレエを習っている時は、いつかオーケストラピットに入って演奏してみたいなと思っていました。

◆好きな作曲家・曲は？

ワーグナーのタンホイザー序曲が好きです。この曲は、小学生の時に父がCDを聴かせてくれて好きになりました。あまりにもいい曲なので、放送委員だった私は、給食の時間にお昼の放送で全校に流して音楽の先生に褒められました(笑)。

◆ホルンの魅力は何ですか？

ホルンの魅力は演奏する事が難しいところかなと思います。他の楽器と比べてということではなく、オーケストラの楽曲の中でも繊細な部分を演奏する事が多いので、表現や音色の変化を細かくつける事が求められます。難しいからこそホルンの音には説得力があるし、奏法を工夫したりフレーズを研究したりすることで、一人一人の持つ音楽に個性が出るのかなと思います。

◆好きなホルン奏者は？

師匠の丸山勉先生です。語るように、歌うようにホルンを演奏する方で、いつか私もホルンが体の一部のように演奏できる日が来たらいいなと思いながら練習しています。クロアチア出身のラドヴァン・ヴラトコヴィチさんの演奏も好きです。

◆使用している楽器について教えてください。

アレキサンダーの1106というモデルを使っています。「英雄のホルン」という名前がついているモデルで、1年前くらいに買いました。

◆山形でお気に入りのもの、場所はありますか？

山形は美味しいお酒も食べ物もいっぱいなので、とても気に入っています。山形に来てからナチュラルワインにハマりました!素敵なカフェも沢山あるので、ゆっくり読書するのが好きです!

◆趣味や特技はありますか？

ダイエットとリバウンドが趣味です!2年前からダイエットにハマって、栄養のことを勉強しているうちに料理もとても好きになりました。運動や筋トレも日課になっています。服やオシャレをすることも好きで、着たい服を着るために痩せる努力をしています。ただ、食べるのも好きなのでリバウンドも特技です。

ちなみに韓国も大好きで、韓国ドラマは常に見ています!そして世界的有名K-POPグループの大ファンです。4つ下の妹と長電話をするのも趣味です(笑)。

◆最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

今回の定期演奏会では、大学の先輩である小田実結子さんの作品を演奏させていただきます。小田さんの作品は大学の時から演奏させていただいて、今回山形で一緒にできることをとても嬉しく思っています。ご来場いただいた皆様にも、心のこもった演奏を届けられるように努力しますので、どうか最後までお楽しみください。